

にしよしづがわいせき 3 西吉津川遺跡

所在地：三条市大字白山新田194 ほか

時代：平安時代・鎌倉時代・室町時代

遺跡の概要

この調査は、県営吉津川地区ほ場整備事業に伴って、三条市教育委員会が新潟県から委託を受けておこなったものです。この周辺では、以前から新田川遺跡・白山B遺跡などの遺跡が知られており、現在でも歩きまわると実際に土器を拾うことができました。そのため、3年間にわたって確認調査といわれる試し掘りをおこないました。その結果、ほ場整備の工事地内に22の遺跡が発見されました。

その中から、平成14年は、西吉津川遺跡の発掘調査を行いました。今回の調査は、用排水路が新設される部分のみの調査であるため、調査区の幅が細く、遺跡全体の様子ははっきりとしませんが、平安時代や鎌倉時代・室町時代の遺構や遺物が確認されました。今後も工事の予定にあわせて、工事によってこわれてしまう8遺跡を順次調査していく予定です。



空から見た吉津川地区

ほ場整備予定地（北から）

発掘された遺構と遺物

水とのたたかい

このあたりは、現在でも信濃川や布施谷川、新田川、吉津川など大小の河川が流れており、これらの河川の活動によって形成された土地です。水利に恵まれ、広く開けた場所である点は稲作に有利であったことでしょう。反面、現在のように川の流路がはっきりと定まっていなかったため、洪水などの被害に遭いやすかったのです。そのため、ふつうは自然堤防とよばれる、まわりより少し高くなっているところに集落がつくられます。

このような場所で稲作をするには、いかに水の流れをコントロールし、効率よく水を引き、排水するかが重要になります。調査の結果、この遺跡にも大規模な水路があったことがわかりました。幅は3m以上、深さ0.7mほどで、現在使われている用水路と平行に走り、調査区の北端で東に逸れていきます。珠洲焼が多く出土していることから鎌倉時代・室町時代に使われていたものと考えられます。ほかに土師質土器や砥石、獣の歯なども出土しています。



発掘中の水路

広い範囲に土器などの遺物が散らばっています。



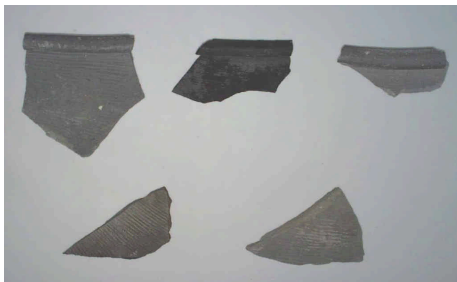
水路の断面



水路の発掘の様子



平成 15 年度遺跡発掘調査速報展 三条市歴史民俗産業資料館
水路からみつかった遺物



珠洲焼

能登半島で焼かれたもので、日本海沿岸を中心に流通していました。鉢、カメ、ツボの三種類の器種がある、丈夫で実用的なものです。平安時代の終わりにつくられはじめ、戦国時代には見られなくなります。



須恵器

鉢などの食器類や、ツボ・カメなどの貯蔵容器があります。今から 1100 年くらい前に新潟県内でも作られはじめ、広く普及しました。



土師質土器

地元で作られた素焼きの土器です。食器だけでなく、灯明具として使われた例もあります。



獣の歯

草食動物の臼歯とみられます。



砥石

刃物を砥いだあとが残っています。

発掘が終った西吉津川遺跡



1 区 (東から)



2 区 (北から)